

～塗り絵の風景を訪ねて～

## 尼崎寺町周辺マップ

活気あふれる商店街や幻想的な工場夜景が有名な尼崎。  
そんな賑やかな街の南側には、全く趣きの異なる閑静な寺町が広がります。  
江戸時代にタイムスリップしたような歴史散歩を楽しんでみませんか。



### 1 本興寺

1420年、当時の尼崎城主・細川満元により創建された、法華宗本門流の大本山。毎年11月3日に開催される「虫干会」では、室町・桃山時代の建造物や、太刀「数珠丸」(国指定重要文化財)を始めとする貴重な寺宝の数々が公開されます。

✕ 尼崎駅下車 徒歩約5分  
☎ 06-6411-3217



### 4 貴布禰神社

漁業や水運、雨乞いの神様として信仰を集め、尼崎城主の祈願所を務めた由緒ある神社。毎年8月1日・2日の夏祭りには、各町のだんじりが繰り出し、多くの参拝客で賑わいます。だんじり同士が正面からぶつかりあう勇壮な「山合わせ」は圧巻です。

✕ 尼崎駅下車 徒歩約15分 / 出屋敷駅下車 徒歩約6分  
☎ 06-6411-0170



### 3 大覚寺

聖徳太子の命を受けた百済の高僧・日羅上人が605年に能勢の剣尾山に建立した月峯寺を、尼崎から遷すために建てられたお堂が起源と伝わります。毎年2月3日の節分には、豆まきや「大覚寺身振り狂言」が奉納され、遠方からも参拝客が訪れます。

✕ 尼崎駅下車 徒歩約7分  
☎ 06-6411-2705



### 2 尼信会館 / 世界の貯金箱博物館

尼崎の歴史を知ることができる貴重な文化財を数多く展示。170か国の貨幣を集めた「コイン・ミュージアム」や、世界中の珍しい貯金箱を集めた「世界の貯金箱博物館」も必見。

✕ 尼崎駅下車 徒歩約5分  
☎ 06-6413-1121 (尼信会館)  
06-6413-1163 (世界の貯金箱博物館)

2019年  
3月29日(金)  
OPEN!

### 尼崎城

1618年から、戸田氏鉄(とだ うじかね)公によって数百年かけて築かれた尼崎城。2019年3月、ついに再建されます。歴史を学び、楽しめる尼崎の新しいシンボルとして注目のスポットです。

✕ 尼崎駅下車 徒歩約5分  
<https://kansai-tourism-amagasaki.jp/>



### 「#ぬりえ旅 阪神」SNS投稿キャンペーン

完成させた塗り絵を「#ぬりえ旅阪神」をつけてTwitterまたはInstagramに投稿してください。抽選で2名様に「60色鉛筆」が当たります。

「ぬりえ旅 阪神」WEBアンケートも合わせて実施します  
感想やご意見をお聞かせください。抽選で50名様に「図書カード」1,000円分をプレゼントします。

締切: 2019年3月15日(金) ※SNS投稿キャンペーン、WEBアンケート共通



詳しくはホームページをご確認ください。

ぬりえ旅 阪神

検索

<http://www.hanshin.co.jp/nurietabi/>

# ぬりえ旅 阪神

ぬりえが誘う、旅ゴコロ。

すぐ塗れる!  
見本付



絵: もふもふ堂

尼崎駅  
(寺町)



“たいせつ”がギョッと。

阪神電車  
HANSHIN ELECTRIC RAILWAY

## 塗り絵スポット紹介



尼崎の寺町は、1617年（元和3年）に尼崎藩主・戸田氏鉄（とだうじかね）公が尼崎城を築城する際、城下町づくりの一環として周辺の寺院を一箇所に集めたことにより形成されました。現在でも、市街地の中心部に11の寺院が軒を連ねており、重厚な寺院建築やレンガ造りの塼、石量の通りなど、街歩きの魅力がいっぱいです。寺町は、訪れる人々に当時の城下町の面影を伝えてくれる貴重な文化遺産です。

- 作家プロフィール  
**もふもふ堂**

昭和の懐かしい神戸の風景を「箱庭」にとらえたトイボックス的イラストの制作を行っています。「毛布に包まって眠るしあわせのように、見る人の心にやさしさを届けたい」——もふもふ堂の作品は、そんな想いから生まれています。

【作家公式サイト】

<http://mofumotudo.com/>



絵：もふもふ堂「尼崎の寺町界隈（長遠寺）」

## 大人の塗り絵

### ワンポイントアドバイス

輪郭を線描で描かず、面塗りで表現するのが「大人の塗り絵」。薄い色を出し、全体に塗り、陰をつけて立体感を出し、最後に様々な色を混ぜて仕上げていきます。ゆっくりに丁寧に塗りましょう。

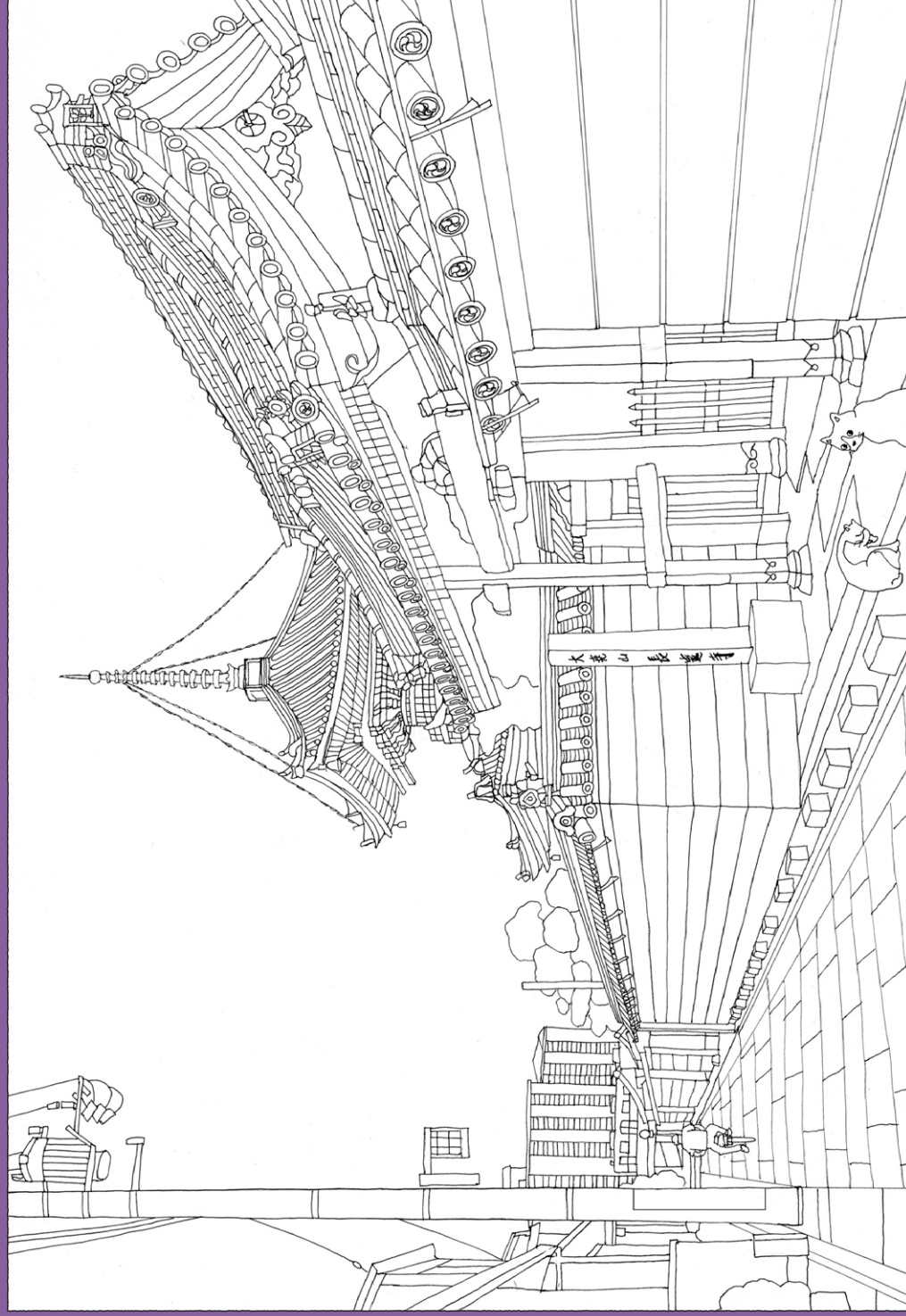
### POINT-1 「瓦や壁」

輪郭がぼやけないように、隣接している瓦や壁板は濃さを変えて塗ります。一気に塗らずに、見本を良く見て、1枚ずつ塗っていきましょう。暗い色は黒や茶だけでなく、紺や紫を混ぜるとメリハリが出ます。

### POINT-2 「石畳」

見たままの色だけでなく、灰色を薄く下塗りしてからピンクや水色、オレンジなどを薄く塗り、再び灰色を重ねると周りの景色に溶け込んだ石畳になります。何度も優しく塗り重ねていきましょう。

「ぬりえ旅 阪神」のホームページでは、他のアドバイズや塗り絵の効用についても紹介しています。



絵：もふもふ堂